

トキ 野生復帰に向けて

7

「新潟県トキ野生復帰推進計画」

新潟県では、トキの野生復帰に向けた生息環境の整備について、県関係部局が一体となって推進するために副知事を本部長とする推進本部を設置して、「新潟県トキ野生復帰推進計画」を策定しました。今回はこの計画の概要をお知らせします。

基本的な考え方

トキを野生にもどす取り組みは佐渡の自然環境を回復することはもちろん、地域づくりや地域振興にもつながり、市民に「心の豊かさ」とともに「もの豊かさ」の物心両面の恩恵をもたらします。県では野生復帰の緊急の課題であるえさ場やねぐら、営巣木の確保などの生息環境の整備に関する計画を策定し、国と市との連携・調整を図りながら課題解決に向けた事業を一体的に推進します。

現状

トキの保護増殖は、人工繁殖技術が確立されて個体数は順調に増加しています。佐渡トキ保護センターでは今年誕生したヒナ18羽を含めて76羽のトキが飼育されています(5月24日現

在)。トキを野生にもどすための野生化訓練施設の建設も新穂正明寺地区で始まり、平成18年度には完成します。しかし、トキが主なえさ場として利用していた山間の水田は耕作の放棄などにより減少しており、農薬などを使わない環境に配慮した稲作も農業者の高齢化により浸透していない状況です。また、トキがねぐらや営巣に利用する森林は松くい虫などの被害を受けてトキがいたところに比べる

と荒廃してきています。

これからの課題

トキの野生復帰には、市民のみなさんの理解と協力が不可欠です。えさの量やえさ場が不足している現状では、生き物が多くすむ新たなえさ場をつくり、トキが食べるえさを確保する必

要がありますし、トキが安心して休息したり子育てしたりできるようにねぐらや営巣に適した樹木がある森林を育成し、保全していかなければなりません。

事業の実施計画

この計画の期間は平成17年度から平成21年度までの5年間で、地域住民の理解と協力、えさやえさ場の確保、ねぐらと営巣木の確保、天敵対策、えさ場の維持管理など具体的な方策は、わかりやすいようにフローチャートに示しました。

「2015年ころ、小佐渡東部に60羽のトキを定着させる」という夢を実現するためには、住民のみなさんの理解と協力を得ながら、これからさまざまな課題に取り組んでいかなければなりません。

推進計画の全容は、新潟県のホームページ「環境にいがた」に掲載されていますのでご覧ください。
ホームページアドレス
<http://www.pref.niigata.jp/sei/katsukankyo/kankyo/>

環境保健課トキ推進室
(新穂農業構造改善センター 2階)
☎ 22-3111

地域の方々の理解と協力をいただくために

- 各種イベントや媒体を活用した情報発信に努めます。
- 住民によるトキの監視体制や生息環境の保全・体験活動を促進します。
- 住民、ボランティア、NPO等の地域での活動を支援します。
- 次代を担う子供たちを育成する取組を推進します。

えさやえさ場を確保するために

- 耕作放棄田等を活用し、住民、ボランティア、NPO等の理解・協力を得ながらピオトープ等のえさ場づくりを推進します。
- えさ生物の生息環境を保全・回復する水田、水路、河川等の整備を推進します。
- 冬期湛水、農薬の使用量を減らす等の環境に優しい農法を推進します。
- 主要なえさであるドジョウの生産体制の整備を推進します。

ねぐら・営巣木を確保するために

- 松くい虫等の害虫対策を推進します。
- ・害虫駆除、被害跡地の植樹等
- 除間伐等による森林の健全な環境の整備、管理を推進します。

天敵の被害を減らすために

- 状況把握を行いながら、テンの樹上行動を防御する等の必要な対策を検討します。

えさ場の維持管理を行うために

- 様々な団体が協働する維持管理体制を確立します。
- 国、県、市およびJA等農業団体等の支援体制の確立を図ります。
- 維持管理活動を促進するためのトキ保護基金(仮称)の設置を検討します。
- 新潟県トキ保護基金推進委員会の助成事業の強化・拡充を検討します。
- 交流や地域活性化を目指した地域づくりを推進します。

トキの野生復帰連絡協議会が環境大臣表彰を受賞

トキの野生復帰連絡協議会(座長は高野毅さん)は農家グループ、市民団体、大学等の25団体で構成され、トキの野生復帰に向けて生息地やえさ場の保全、生態系保全型農業の実践、学術調査などに取り組んでいます。

これらの実践活動が評価されて、このほど平成17年度「みどりの日」自然環境功労者として環境大臣から表彰されました。表彰式は、みどりの日の4月29日に東京厚生年金会館で行われ、能勢和子大臣政務官から表彰状と記念品が授与されました。

およそ10年後に小佐渡東部に60羽のトキを定着させることを目標に進められているトキ野生復帰計画を実現させるためにも、協議会のさらなる活躍が期待されています。

